

2022年10月21日

熊本県知事 蒲島 郁夫 様

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会 共同代表 岐部 明廣  
7・4 球磨川流域豪雨被災者・賛同者の会 共同代表 鳥飼 香代子  
市花 保  
子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会 代表 中島 康

## 球磨川水系に関する FAQ ならびに台風 14 号に関する 申入れ

日頃は県民のためご尽力くださることに、敬意を表します。

県のご尽力により、私たちがこれまでに提出してきた申入れや意見書に対する回答である「球磨川水系に関するよくあるご質問 (FAQ)」が 8 月 9 日に八代河川国道事務所 HP で公開されました。

あいにく FAQ の説明には数多の事実誤認や論理矛盾、甚だしい説明不足が見受けられることから、球磨川河川整備計画の議論のベースとなった人吉大橋・危機管理型水位計の問題に特化して映像データ等を添えて疑問点を明示し、事実を踏まえた政策立案を求める申入れを 8 月 23 日と 9 月 12 日に行ないました。これを受け県は、国土交通省に伝えるとともに県としての見解および回答をする旨を、口頭で約束くださいました。

また、この間人吉市中心市街地復興まちづくり事業に関する説明会や協議会が開催され議論が重ねられる中で、山田川の氾濫メカニズムの実態把握を踏まえた川づくりこそが、今後の復興まちづくりを考える際には必須であることが、明らかになってきました。しかし FAQ の支川氾濫に関する説明では、根拠や前提を明示せぬままバックウォーター説や流水型ダムの過剰な効果のみが強調されており、現実には議論を行う材料を何ら提供していない、と言わざるを得ません。

さらに、台風 14 号に伴い流域に降った大雨を契機として、市房ダムおよび川辺川上流の穴あき砂防ダムが球磨川流域に対して孕むリスクが、明らかになりました。県は国交省と共に「市房ダムの効果」をしきりに喧伝していますが、9 月 19 日 4 時台にサーチャージまで 2cm に迫り放流量が流入量を上回る事態に陥りました。しかし、その事実が有するリスクには一切触れていません。くわえて、穴あき砂防ダムである樅木ダムと朴木ダムは、長らく川辺川に濁水をもたらしました。「流水型ダムで命と清流を守る」と繰り返し明言する知事は、この事態をどう受け止め解釈しておられるのでしょうか。

以上を踏まえ、下記を求めます。

### 記

1. 9 月 12 日の要請に対する回答を示すこと
2. FAQ の支川氾濫に関する説明が前提とする降雨状況（流域平均ではなく、どの地点にどれだけの降雨があった場合か、等）やシミュレーションの条件の詳細を示すこと
3. 市房ダムがサーチャージまで 2cm に迫り放流量が流入量を上回る事態が孕むリスクに対する考えを示すこと
4. 流水型ダムが「清流を守る」とする根拠を、流域の実情を踏まえた上で示すこと

以上

問合せ先：手渡す会事務局長 木本雅己